

男女共同参画センター、しごと支援センター、生涯学習推進センター、NPO・ボランティア協働センター等の複合施設としての取り組みとその他関係機関との連携した取組を行う拠点

地域：熊本県

主体：くまもと県民交流館「パレア」男女共同参画センター（公設公営）

場所：〒860-8554 熊本市手取本町8-9 テトリア熊本9F

連絡先：TEL (096) 355-1187 FAX (096) 355-4317

E-mail：parea@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ：http://www.parea.pref.kumamoto.jp/

【特徴】

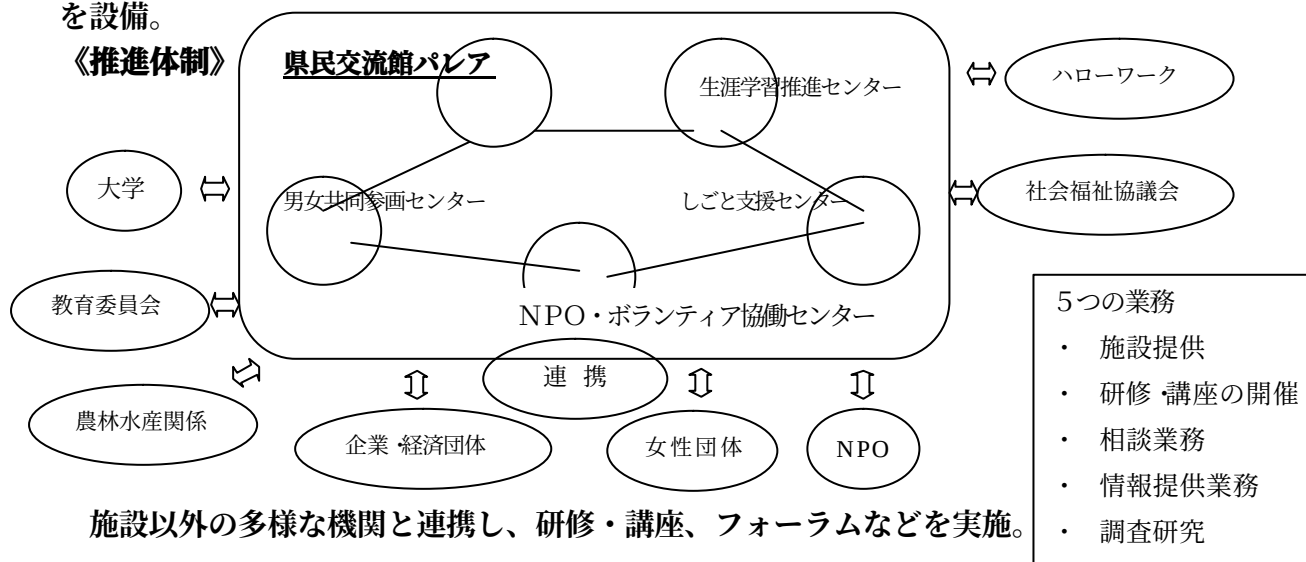
- ・ 県民のいろんな活動を支援する施設や機能が一箇所に集まり、様々なチャレンジが可能。
- ・ 複数の機関と連携し、研修・講座やフォーラム等を実施
- ・ 年に1度複数の機関と合同イベントを開催
- ・ 利用者の利便性が高い情報のワンストップ化。

【センターの概要】

NPO・ボランティア、男女共同参画社会づくり、生涯学習活動など、県民の自発的で主体的な様々な活動を応援する拠点施設。

施設内には、①NPO・ボランティア協働センター、②男女共同参画センター、③しごと支援センター、④生涯学習推進センター、⑤観光物産交流スクエアの5つの機能をもち、県民活動、NPO・ボランティア団体等の活動拠点としての会議室、情報ライブラリー等を設備。

《推進体制》



施設以外の多様な機関と連携し、研修・講座、フォーラムなどを実施。

【各センターの事業概要】

男女共同参画センター

啓発事業、情報収集・提供、人材育成、女性総合相談事業、調査研究、自主活動・交流支援、ネットワークづくり

しごと支援センター

求人情報（熊本パートバンク等）や雇用・能力開発機構等、ハローワーク等、就業相談、技術講習（経理中級、パソコン、ビジネス実務、老人介護等）、ネットワークづくり

生涯学習推進センター

学習情報提供、学習機会提供、学習相談、指導者養成研修、普及啓発、交流会・ネットワークづくり、調査研究等

NPO・ボランティア協働センター

NPO法についての相談及び申請・届出の窓口業務、ボランティア活動・団体運営等に関する相談、情報収集・発信、NPOやボランティア活動に関する各種セミナー、交流会、講演会開催、ネットワークづくり、県社会福祉協議会等と連携して行う情報提供

【具体的事業】

〔利用者の声〕

▼ NPO活動にチャレンジ

「病児保育施設の必要性」を考えていた女性達が、開館とともに、男女共同参画センターに出入りして、働く母親のための病児保育のために活動したい旨相談したところ、同じパレア中の「NPO・ボランティア協働センター」の紹介を受け、そこで「行政がやれないことをやるのがNPO」との言葉に「自分たちにも何かがやれる」と自信を貫いた。

ほとんど毎日、パレアに通い詰め「NPO入門セミナー・設立セミナー」に参加するなどの研修活動を通じてNPO法人「チャイルドケア・サポートみるく」を立ち上げた。現在、会員100人を超え、6か月間で延べ270人の子供を預かった。平成15年度は県の助成金を受けることが出来た。

「チャイルドケア・サポートみるく」は、「パレアでは、他のグループの方からの貴重な経験談などが聞けて有益だった。また、設立・運営の相談にも応じてくれて大変助かった。現在も情報収集には欠かせないところです。」と語っている。

→ 連携先：パレア ホームページ（前掲）

●印刷製本室

会議の資料やチラシづくりに便利な、印刷製本室も近くにあります・



●パレアルーム

【開館時間】9:00~21:00

（NPO法人認証申請・届出の窓口業務は17:00まで）



▼ 再就職にチャレンジ

男女共同参画センターの「女性総合相談」で、家庭問題等について相談したところ、実は再就職を望んでいたということがわかり、本人の就労のためにパレアの中にある「しごと支援センター」を紹介した。そこに併設されている国のパートバンクから求人紹介を受けたが、キャリア不足のため就業相談を受け、再就職にチャレンジするために技術講習としてパソコン講座や介護講座等を受講し、資格取得後再就職を果たした。

主な再就職先としては、行政機関や中小企業等の事務職、福祉施設等の介護士、保育士となっている。

→ 連携先：しごと支援センター、パートバンク

技術講習：雇用保険受給の対象とならない就業希望者（育児や介護等を理由に退職し再就業を希望する方や就業経験のない方を対象）

- ・ 経理中級（日商簿記2級程度、ビジネスマナー、パソコン）
- ・ パソコン（ワード、エクセル、表計算3級、ビジネスマナー）
- ・ ビジネス実務 訪問介護（ホームヘルパー養成研修）



※ 県の技術講座受講により、資格を取得した人の就労率は65%（年）を超えている。

仕事にかかる様々な相談を受け、関連する情報を提供します。経理やパソコン、訪問介護などの技術も。パートバンク（TEL:096-322-8010）もあるので、気兼ねなく相談できます。

【受付時間】9:00~19:00

（パートバンクは平日17:00まで）

▼ ボランティア活動にチャレンジ

男女共同参画センターで、「地域リーダー育成研修」・「男女協働政経塾」の「実践的市民参加講座」等を受講したり、又は同じパレアの中の生涯学習推進センターで「生涯学習ボランティア養成講座」や「社会教育主事等の地域づくり研修」を受講し、本格的に市町村のボランティア活動のリーダーとして活動を開始した。

活動に当たり、男女共同参画センターやNPO・ボランティア協働センターで情報収集をしたり、ワークショップ等に参加している。

※ 男女協働政経塾（男女共同参画センター）：大学や企業等との連携を図り、実践的市民参加講座や女性起業支援、キャリアアップ、政治経済など様々な講座を提供。

→ チャレンジ先：市町村の審議会委員・男女共同参画推進委員・男女共同参画懇話会委員・民生委員・農業アドバイザー等



▼ 起業にチャレンジ

本人が真剣に起業を考え検討を重ねながら、男女共同参画センターを訪問し、そこで得た情報により「男女協働政経塾」の「キャリアアップ講座」、「起業支援講座」の会計システムやマーケティング等について厳しくレポート提出を行うことなどにより、講座受講後に起業し、喫茶店開設や税理士事務所・薬局等を運営している。

→ 連携先：大学、企業、経済団体、農林水産業関係者など 講座例

後期講座5 募集期間：5月1日(水)～10月24日(木) 女性起業支援講座Ⅱ【応用編】 ～起業家へのチャレンジ～ 講師：古田 隆典氏 募集期間：5月1日～10月24日までの毎週水曜日/全10回 起業を志している女性を対象に、最終目標までおきたい内容や 会社についての基礎知識及び事業計画書の作り方を学びます。		前期講座1 募集期間：5月1日(水)～5月23日(木) キャリアアップ講座 ～自己実現を目指して～ 講師：古田 隆典氏 募集期間：5月1日～5月23日までの毎週水曜日/全5回 さらに充実した内容を学びたい。これはずべての人の願いです。 では、キャリアアップにとって必要なことは何か。講義や経験 者を通じて知っていく学びます。	
1 ベンチャー起業の神話と現実 古田 隆典氏 11/6 熊本県立大学経済学部教授	6 最初の資金調達 三宅 成光氏 12/11 国民生活金融機構熊本支店融資第一課長	1 男女共同参画とキャリアアップ 石橋 敏彦氏 6/5 熊本県立大学総合情報学部教授	6 人事評価と昇進 大崎 哲丸氏 7/10 南熊本労務労務労務人労務員
2 顧客ニーズの本質と売れる商品 渡部 守正氏 11/13 熊本県立大学経済学部教授	7 人事と労務の基礎知識 伊東 記代子氏 12/18 社会保険労務士	2 私の奮闘記 藤川 真子氏 6/12 西日本システム建設株式会社課長	7 コミュニケーション力は成功の秘訣 高木 志穂氏 7/17 熊本県代官労務労務員
3 事業計画書づくり1 古田 隆典氏 11/20 熊本県立大学経済学部教授	8 会計システムの構築 田代 みゆき氏 1/8 税理士	3 記者の見たそれぞれの生活 中村 美穂子氏 6/19 熊本県社会福祉社北九州局	8 平等とは、分権とは 飯野 桂三氏 7/24 九州大学経済学部教授
4 事業計画書づくり2 古田 隆典氏 11/27 熊本県立大学経済学部教授	9 起業に失敗したら 野口 敏夫氏 1/15 弁護士	4 会計がわからなくて成功なし 島 美智代氏 6/26 熊本県立大学総合情報学部教授	9 企業力、女性の力 宮崎 昇雄氏 7/31 全熊本代官労務労務員
5 会社の設立手続き 船本 智広氏 12/4 司法書士	10 事業計画書の発表会 古田 隆典氏 1/22 熊本県立大学経済学部教授	5 女性パワーとマーケティング 立山 敏男氏 7/3 熊本県立大学総合情報学部教授	10 生活と法律・キャリアアップの心得 武本 朝子氏 8/7 弁護士

▼ 組織内の上へのチャレンジ

企業の中で女性達が、スタッフから係長、課長、部長等のリーダーとしてリーダーシップを高めるために、男女共同参画センターの「男女協働政経塾」の「キャリアアップ講座」を受講し、「リーダーとしての危機管理能力」や「人事と労務管理」などのスキルアップを図った。

センターとしては、講座の成果として、企業の中で「できる人」になるための実践講座をめざし、企業に頼りとされることが重要である。

【今後の課題】

- ・ ネットワークでチャレンジを総合的に支援するスペシャリスト（アドバイザー）の養成
- ・ チャレンジ内容にマッチしたセミナー、相談会の開催
- ・ インターネットを利用した具体的で役立つ情報の発信
- ・ ロールモデルの発掘と情報提供